

主催：一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ

グラフィック・ハーベスティング基 礎講座

研修報告書

古西祐子・村岡栄紀・岡崎義樹・林晴信

2017年8月6日

グラフィック・ハーベスティング基礎講座

【日時】2017年8月6日（日） 10:30~17:00

【場所】国立明石工業高等専門学校 協同学習センター

【講師】梯 愛依子（かけはし あいこ）・アオナミ ユミコ

【主催】一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ、明石高専建築学科大塚研究室

【内容】

1. オリエンテーリング

地方創生時代のまちづくりとは、対話と協働を通じて市民が主役となり、市民同士が支え合って進めていくもの。これからの行政や議会には、それを支え、コーディネートする役割が求められている。

- ・協働する→言い出しっぺに集まる人たちで、わいわいやる。
- ・対話する→聴き合う、知り合う、受容れ合う。

2. ペンを使って描いてみよう

グラフィックの練習 ○△□の組み合わせ

3. お絵かきしりとり

世代間でイメージするものが違う（例：電話・・・固定電話と携帯電話）
文脈があれば意味がわかる。

答え合わせ＝話せばわかる（話すことで理解が深まる）

4. グラフィックを使って自己紹介

最近一番良かった（嬉しかったこと）・一番リラックスできる時間

5. ハーベスティング

☆8つの呼吸（BREATH）

関わる人が納得する形で変化を生み出すために、対話の場を開き、働きかけていく人たちのための枠組み

①使命感を感じる（CALL）

強い衝動、直感、使命感などの気持ちが自分の中にあることを意識して、口に出してみる。

②大切なことを明確化する（CLARITY）

思いを形にするために必要なことを話してみる。プロジェクトと一緒にやってくれる人の拠り所を明確に認識する。

③支度を整える（PREPARE）

大切な話をしたくなる環境を選び、話す内容を問の形でクリアにし、参加を呼び掛ける。どんな風に時間を過ごすかのプロセスも設計する。

④集う（MEET）

対話の場になる。心から大切に思うことを口に出し、一人一人の思いに耳を傾け、対話をしている人たちとの探求を楽しむ。

⑤ハーベストする（HARVEST）

話し合いの結果を収穫し、見える化し、それをプロジェクトにつなげる。次のステップの可能性を開き、共に学び、それを確認し合う。

⑥行動する（ACT）

明確にしたプロジェクトの目的を達成するため行動する。

⑦振り返り、学ぶ（REFLECT）

内容面で「欲しい結果が得られたのか」を考えるだけでなく、「何が機能したのか」「選択したひとつひとつの行動は拠り所に合っていたのか」「そもそもその拠り所に改善の余地はないか」などのプロセス面にも注目して学ぶ。

⑧全体を通しやってみる（HOLD the WHOLE）

7つのプロセスを一通り行うことで、もう少し大きなプロジェクトにトライしたり、前より上手くプロセスを進めたりするのに役立つ大きな経験と学びが得られる。その場その場でベストを尽くし、多少上手いかわなくても次に進み、最後までやってみることを大切にする。

・ハーベスティングの8つの呼吸

ハーベスティングとは、大切な話し合いを行動につなげるためにプロセスをデザインして実践するための包括的な技術のこと。

グラフィック・ハーベスティングは、グラフィック・ファシリテーションを収穫の手段として用いている。

①ほしいものをイメージする

②活動の場を整える

- ③ハーベスの計画を練る
- ④種をまく
- ⑤作物を育む
- ⑥実りを摘み取る
- ⑦実りにひと手間かける
- ⑧次のアクションを計画する→①に戻るサイクル

☆ハーベスティングの効果

- ・共有できる
- ・場で起きたことの記録として使える
- ・場にいるみんなで学ぶことができる
- ・場にいるみんなに活力を与え続ける
- ・マイノリティの声を受け取ることができる

6. グラフィック・レコーディング

大塚先生（明石高専建築学科教授）の講話をグラフィック・レコーディング

7. ふりかえり



『グラフィック・ハーベスティング基礎講座を受けて』

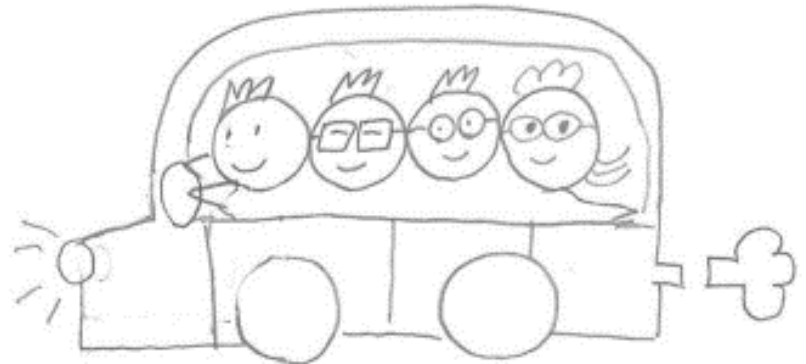
古西祐子

グラフィック？ハーベスティング？何それ？から、始めました。

林議員からの情報提供で、初めて聞いたその名前でした。これが、何故議員に関係あるの？と、瞬間思った訳ですが、林議員に尋ねると、ファシリテーション研修の一環でもあるということで、ファシリテーションカに全く自信のない私は、受講するしかないな、という単純な動機で受講を決めました。



グラフィックとは、絵を描くことということで、議員が絵を描く？というのも、ちょっとクエスチョン？だし、絵心のない私が大丈夫なのか？など、一抹の不安を感じつつ受講当日を迎えました。

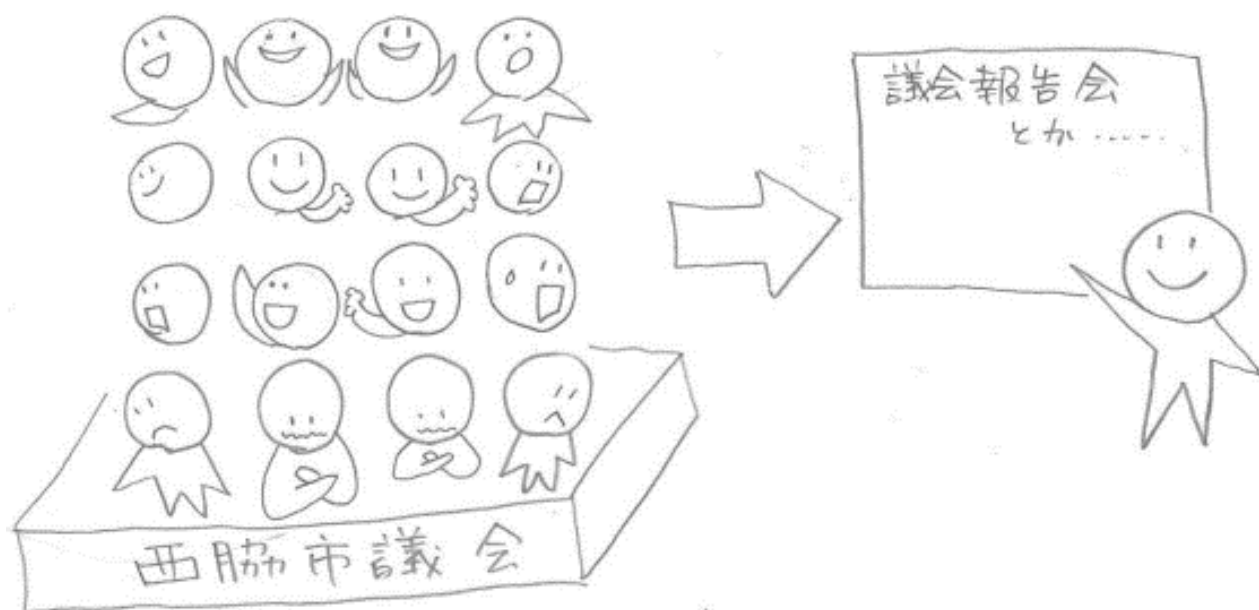


ハーベスティングとは、大切な話し合いを行動につなげるためにプロセスをデザインして実践するための包括的な技術のこと、ということです。

グラフィック・ハーベスティングは、グラフィック・ファシリテーションを収穫の手段として用いています。グラフィック・ファシリテーションは、シンプルな「絵」を使ってメンバーの考えに構造を持ち込むことです。プロジェクトや会議などの場で、複雑なプロセスを「絵」を使って可視化することで全体像を提示し、共通言語を生み出し、メンバーの当事者意識を育むのに役立ちま

す。具体的には、ディープリスニングとシンプルなデザイン技術とファシリテーション方法が組み合わさったものと言うことで、簡単なようで、なんのなんの多角的な能力とセンスが求められる、高度なものと感じました。チームや、何か目的を持って活動している人々がアイデアを捕え、グループの取組に集中し、結果をより効果的に他の人と共有したいと思っているのを支援したい人にとっては、理想的なツールといえます。このスキルを身につけることによって、議員活動や議会活動で遭遇する、様々な会議やワークショップの場で、グラフィック・ファシリテーションを上手に用いれば、会議がより効果的なものになり、充実するようになってきました。

この度の研修で、まだまだうまく描けませんが、ひとまず基本的な絵の描き方が学べたことや、またこのような伝え方の手法があるということを知ることができたということは、大きな収穫だったと思います。やってみると、中々奥が深く、1日の研修では、まだまだ体得できるものではないなということを感じるとともに、レコーディングの難しさ（記憶力の無さ）と、センスの無さを痛感しましたが、実践の場で、まずはグラフィックを使い、慣らしていければと思っています。



『グラフィック・ハーベスティング講座を受講して』

村岡栄紀

グラフィック・ハーベスティング講座を受講して、特に興味深かったのが、関わる人たちが納得する形で変化を生み出すために、対話の場を開き、働きかけていく人たちのための枠組みとして「8つの呼吸」があり、それが非常に大切だということです。

8つの呼吸とは—①駆り立てられる (CALL) ②明確にする (CLARITY) ③準備する (PREPARE) ④集う (MEET) ⑤収穫する (HARVEST) ⑥やってみる (ACT) ⑦ふりかえる (REFLECT) ⑧全体を通してやってみる— といった過程になるのですが、もう少しわかりやすく表現すると、ほしいものをイメージして→収穫までの計画を練る→活動の場を整える→種を蒔く→実りを摘み取る→実りにひと手間かける→次のアクションを計画する、といった感じになると思います。

講座を受講しているときに、まず疑問に感じ、その後で、じっくりと位置づけや意味合いを考えさせられたのが、⑤の「収穫する」の後に⑥の「やってみる」が続くということです。普通なら「収穫する」前に「やってみる」と思いがちですが、行動する前の「収穫する」いわゆる「ハーベストする」の考え方は、話し合いの結果を収穫し、見える化し、それをもってプロジェクトにつなげ、次のステップの可能性を開き、拠り所を作るために集った人みんなでここから共に学び、それを確認しあうということがポイントであるという点です。そして、「行動する前」に「収穫する」「ハーベストする」ということを、しっかりと位置づけるということが、今回の講座の大きなキーワードであると感じました。

講座を終えて、グラフィック・ハーベスティングにより、会話や話が、あっという間に文字とイラストで紙の上に表現されることにより、全体像を多くの人と共有できたり、新たな気づきや解釈に出会えたり、言葉だけでは記録できない要素が記録できたり、話し手と聞き手のコミュニケーションがスムーズになるなど、この手法の無限の可能性を感じました。私自身も、この一期一会を大切に、これから継続的に学習、実践することによって、自分の活動に生かせたらと思っています。

8つの呼吸

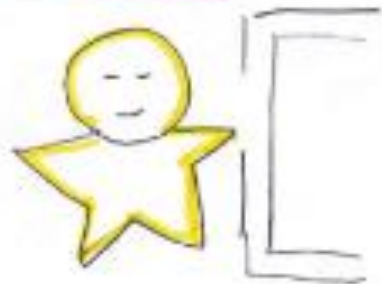
① 駆り立てられる



② 明確にする



③ 準備する



④ 集う



⑤ 収穫する



⑧ 全体を通してやってみる



⑦ ふりかえる



⑥ やってみる

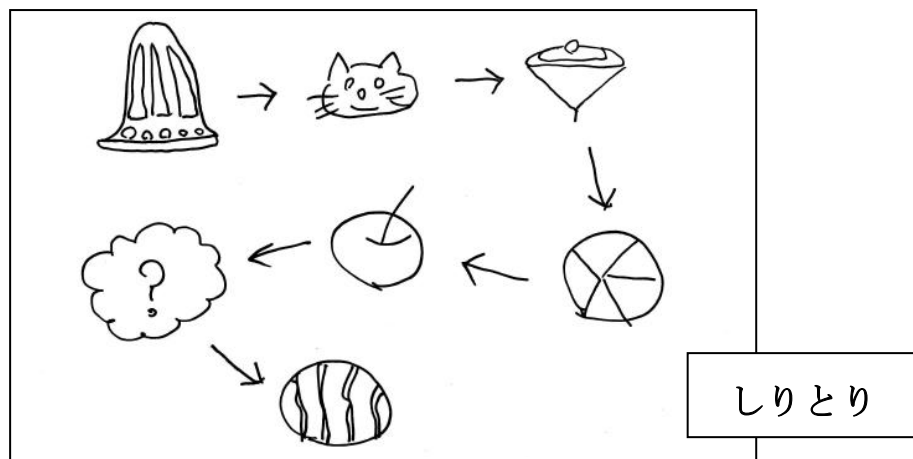


『グラフィック・ハーベスティング基礎講座 所感』

岡崎義樹

今回は、絵を使って多様なメンバーと共に共通の理解の中でファシリテーション能力を高めるために、グラフィック・ハーベスティング基礎講座を受講しました。実際に自分自身絵を描いたりするのが好きとか、うまく表現ができる訳ではありません。何か絵を使って話し手となって伝える事ができれば、本当に素晴らしいなと安易な気持ちで参加してきましたが、初対面の方たちと絵を描きながら、コミュニケーションを取ったりしながら、何とか楽しめたかなと思いました。そうした中で受講した講座ですが、どのようにして約5時間ほどのスケジュールの中で学べるのか、楽しみながら参加しました。

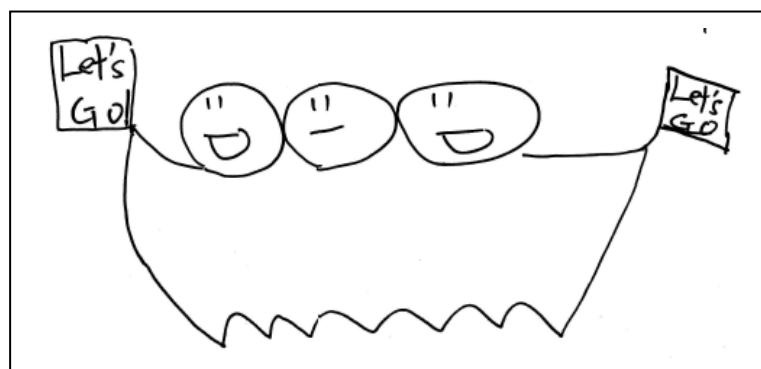
まず最初にここで学ぶために大切な事として、①いきなり描いちゃうグラフィック、②老若男女のコミュニケーションに、③ハーベスティングという豊かな知恵である事を知りました。会場には、いろんな年齢層や職種の方々など男女を問わず参加されており、最初は緊張していましたが、時間が経つにつれて和やかな雰囲気の中で、初心者である私も落ち着いて聞く事ができました。その後は、あるテーマに沿って、ペンを走らせながら、いろんな方とのコミュニケーションを取ったり、初対面の方に自身の絵を理解してもらえたかどうかなど、心配でありましたが何とか伝わったかなと思いながら、本当に和やかでいい雰囲気の中で対話の場づくりを味わう事ができました。



最後は実践講習では、自分の事ではなく、今回の会場となっている明石高専としての快適に過ごせる空間をどのように作るかなど、「できたらいいかも」というテーマから、建築学科の大塚毅彦教授によるリスティングを聞き、

それぞれがグラフィックを使って、いろんなイメージを考えながら、絵を描いていくグラフィック・レコーディングの実践講習でした。正直に言うと話し手の言葉を聞きながら、絵を描いて相手の伝える事のむずかしさは本当に大変な事であると実感しました。今言った言葉をどのように絵を描けるのか、何を描いたらいいのかなど、頭の中でいろいろと考えているとその言葉とイメージがどこかへ飛んでいってしまって、うまく絵を描く事ができず、おどおどしている自分自身に反省ばかりしていました。やはり難しく考えしすぎず、何かとこだわらない事も大事であるのかなと感じました。それとやはり絵が好きな方やよく絵やマンガなどを描く方にとっては、素直にかけるのかなとも思いました。そうした中で自分の考え方などをイラストや絵を使って表現する事ができれば、言葉よりもイラストイメージの方が相手にとっては興味も持ってもらえるのではないかなとも思いました。

まずは、ペンを持って絵を描きながら、コミュニケーションを取っていく事からスタートし、「あーでもない、こーでもない」事を語りながら、必要なものが何なのかを見つけ出すことの大切さを学びました。今回の講座から学んだことでファシリテーションの進め方の難しさなど、まだまだ未熟な私ではありますが、もっと実践できるように実力をつけていくなど、どうしたら、聞き手に興味を持ってもらえるかなどを研究しながら学んでいきたいと思えます。



『参加してみても ぶりかえり』

林 晴信

グラフィック・ハーベスティングの存在は、北海道自治体学会での事例や横浜市での事例、もちろん最も有名な牧之原市の事例からも知っていて、いつか講座に参加してみたいものだと考えていた。運よく偶然明石市で基礎講座が開催されることを知り、他の議員にも声をかけ、参加してきた。

ファシリテーションの講座には市民講座でも、また西脇市市議会の議員研修講座や、古くは会社員時代の研修でも参加したことがあるが、それはあくまでもファシリテーターであるとか、ワークショップ参加者向けの研修で、グラフィックを描くのは初めてだった。「絵心なんて無くても大丈夫」との煽り文句で安心しての参加だったが・・・

グラフィック基礎練習で、何とか絵は描ける気はした。

しかし、最終で行ったグラフィック・レコーディングとなると全然できない。もともとメモをしたりするのが苦手なタイプで、字でもできないのに絵となると尚更できない。記録よりも記憶に頼るタイプなので、本質的に向いていないんだろうなあとは思った。

ただ！

帰ってきて、FBでサステナビリティ・ダイアログ代表である牧原ゆりえさんに、私のグラフィック・レコーディングを見せた時に、「グラフィックは漢字や平仮名のリノベーションって面白いですね、どういう話なんですかね～」と言われると、「もともと日本語は表意文字で・・・」等の大塚先生の話（さらに自分で補完して）がスラスラできることはある種の驚きでもあった。私の意味不明のグラフィック・レコーディングでも記録装置としての一定の役割は果たすものだな（もちろん、言葉による補完は必須だが）と感じ入った次第。

グラフィックは日々の練習が大事で「とにかく描いて描いて描きまくれ！」なんだそうなので、私も少し練習して、来年の高校生版議会報告会あたりで披露できる機会があれば良いなと思っている。

そして、ハーベスティングだが、8プレスも当初少し戸惑った部分もあるが、基本的には理解できるもので、ビジネスでも使うPDCAの中身も取り込んだものであると思う。ただPDCAはいかに効率的に取り組むかがキモでもあるが、ハーベスティングは寧ろ効率を優先させているものではないように感じた。

「最終的な意思決定に反映できない声があったことも記録する」などは効率性からは排除されるものでもあるからだ。公共での議論、まちづくりや議会の議

論などは、こちらに親和性を感じるものであるはずだ。「欲しい結果が得られたのかを考えるだけでなく、何が機能したのか（あるいはしなかったのか）、選択した行動は拠り所に合っていたのか、そもそもの拠り所に改善の余地はないかなどのプロセス面に注目する」などは、まさに「行政評価」と言っている。

「欲しい結果＝アウトカム」「何が機能したのか＝アウトプット」「選択した行動＝事務事業」「拠り所＝政策・施策」と置き換えてみるとわかりやすい。

まだまだ私もこの基礎講座を受けただけなので、ハーベスティングの何たるかは何も理解できていないと言ってしまうが、有用性は垣間見たと思っている。このハーベスティングも興味を持って研究してみたいと思っている。

さて、このグラフィック・ハーベスティングの技術を用いて、熊本大地震や北九州豪雨災害などで、現場で活躍している話を聞かせていただいた。また福岡県古賀市や、静岡県牧之原市、青森県むつ市などのまちづくりや駅前再開発等でも活躍しているようである。そしてその中心には市民ファシリテーターの存在があることも知られている。西脇市でもワークショップ講座を開いているが、私が参加した限り、「ワークショップってどんなもの？」「ワークショップの手法を学ぶ」という域どまりの講座であった。そこからさらに進んで市民ファシリテーター養成講座などを開催してみてもどうだろうか。西脇市は「市民主役のまちづくり」を唱えるわりには市民ファシリテーターの養成にまで届いていないのが実情ではないだろうか。牧原ゆりえさんから「是非、牧之原市に来てみてください。たくさんのお誘いを受けている。市民ファシリテーターが活躍する牧之原市に、改選後にでも一度行ってみて体感してみなければならぬ」とも思っている。

またさらには、このグラフィック・ハーベスティング基礎講座なら、中学生や高校生にも楽しみながら学べるのではないだろうかと感じた。「絵を描く」というアプローチは若い人たちにもとつきやすい入口だと思う。事実、私の班には16歳の高校生が参加していて、将来は海外に留学して学びたい夢も語ってくれた。そして、16歳の彼女のグラフィック・レコーディングなどは私などより数段上の出来栄だった（初めて描いたそうだが）。こういった取組を通じて「対話の技法」や「まちづくり」を学び考えることは中高生にまたとないアクティブラーニングの機会になると思うのだが、どうだろうか。

私の参加した班には、前述の高校生、さらに明石市で子ども食堂の開設の実現を目指す女性、京都で子どもの居場所づくりに取り組む大学院生などがいた。そのそれぞれが自分のパートで一所懸命頑張っている姿を見た。今日の研修への参加もその意欲の現れであると思う。こういった「市民」が西脇市にももっと増えればなあと思う。

西脇市行政にもまだまだ仕掛けが足りないように思うし、市議会としても何かこういったことにも取り組めないか、と思う。

自身のスキルアップだけでなく、色んなことを考える切っ掛けにもなり、また面白い人にめぐり合えた、よい研修機会であったように思う。

